

東大日本史 過去問評価表

年度	大問	設問	知識	読解	記述	総合 難易度	記述形式	評価コメント・アドバイスなど	関連問題
2026	1	-	2	3	3	3	構造・変化	知識・読解・記述がバランス良く求められる。未知のテーマに対し資料からストーリー化させる東大らしい問題	2024年度第1問、2021年度第1問
2026	2	A	2	1	2	2	目的	資料を読み、御成敗式目による裁判基準を知っていれば簡単。	2005年度第2問
2026	2	B	4	2	3	3	対比・背景	資料だけでは字数が足りず、背景から要素を足す。分国法の性格を理解しておく必要がある。	2005年度第2問、1996年第2問
2026	3	A	4	2	2	2.5	要因	2004年第3問をやっていると即答できる。過去問演習が重要。地理選択者に少し有利か？	2004年第3問、1995年第3問
2026	3	B	3	2	3	3	対比・構造	普通の農村の特徴を自分の知識から完全に補う必要がある。記述は対比すればよく簡単。	
2026	4	A	4	2	3	3	対比・要因	戦後は完全に知識から記述しなければならない。複数要因を思い出したい。	2016年第4問、2011年第4問
2026	4	B	2	5	3	3	変化・背景	知識はあまり必要とせず、資料をまとめれば答えられるが、統計データの計算方法まで考えることにより、ヒントが増えるという仕掛けもある凝った問題。	
2025	1	-	2	3	4	3	対比・変化	知識、読解、記述それぞれバランスよく必要な問題。7世紀と8世紀の対比内容を言語化するのが難しい	2004年度第1問、2009年度第1問
2025	2	-	3	4	4	4	対比・分類	第1問の下位互換のような問題。資料文中にある幕府が「された」対応をどう使うか判断に迷う。	2008年度第2問、2016年度第2問
2025	3	A	3	3	4	3.5	意図・目的	盛り込む要素が多く要約力が試される。	1998年度第3問、2011年度第3問
2025	3	B	1	3	3	2.5	変化	ほかの問題集や他大学の過去問でも散見されるような典型的論点であり落とせない。	
2025	4	A	2	2	3	2.5	背景・要因	ほぼ前提知識不要で資料を読み取ってそれをまとめる問題。	2010年度第4問
2025	4	B	4	3	4	3.5	変化・背景	「日露戦争後」という時代区分と文化(唱歌)を結びつける連想力が必要。	
2024	1	A	4	2	4	4	変化	太上天皇の立場が公的から私的に変化するというのは典型的なテーマなため前提知識も含めて解答したい。	2005年度第1問、2021年度第1問
2024	1	B	5	3	5	5	変化・対比	嵯峨朝の政治改革の本質を問う難問。「唐風化」の意味を深く理解している必要がある。	
2024	2	A	2	3	3	3	背景・要因	新技術導入の背景には日宋貿易や人的往来があるということを資料から読み取りたい。	2012年第2問、2013年度第3問
2024	2	B	3	4	4	4	変化	頼朝の権力が私的から公的へ転換するプロセスとリンクさせる視点・資料の読み取り力が必要。	
2024	3	A	3	3	3	3	変化・因果	対ポルトガル政策が「貿易利益重視」から「禁教優先」へ転換した理由を資料を資料に沿って書く。無駄なことを書く文字数オーバーする。	2009年度第3問、2016年度第3問
2024	3	B	3	4	4	3.5	意図・目的	大名への通達理由を、報復に備えた軍事動員・沿岸警備の必要性から解釈したい。	
2024	4	A	2	4	4	4	対比・要因	明治期(小作増)と大正期(停滞)を、デフレや産業構造(都市流出)の違いからキレイに対比したい。	2004年第4問、2009年度第4問
2024	4	B	4	4	4	4	意図・背景	食糧増産という国家的要請が時代の流れや資料から読み取れるかがカギ。	
2023	1	-	4	2	5	4.5	変化	3つの時代変化を180字で繋げられるかがカギ。長いので文章のねじれがないようにしたい。	2001年度第1問
2023	2	-	2	4	5	4.5	変化・因果	家督の決め方の変化が乱の原因になるロジックを組み立てるのが難しい。	2011年度第2問、2017年度第2問
2023	3	A	1	3	3	3	変化・要因	知識は不要で資料から都市下層民のライフスタイルが寄席急増に結び付く理由を構築するだけ。	2008年度第3問
2023	3	B	2	4	4	3.5	意図・目的	時代背景が天保の乱周辺で打ちこわしが横行していたということがわかれば簡単。	
2023	4	A	4	1	4	3.5	変化	資料というよりは半分知識問題。対外関係が対米従属(吉田)から自主・対等化(鳩山・岸)へ変化した流れを書く。	2008年度第4問
2023	4	B	3	3	4	4	構造	グラフから社民党の割合を読み取り、知識と合わせて記述を完成させる。	

東大日本史 過去問評価表

年度	大問	設問	知識	読解	記述	総合 難易度	記述形式	評価コメント・アドバイスなど	関連問題
2022	1	A	1	2	3	2	構造	知識不要。読解も難しいけれど、短くまとめて書くのは結構難しい。	2000年度第1問
2022	1	B	2	5	4	4	構造	これも教科書レベルの知識では解答不能で、資料を基に考える。Aより字数も長く難しいか。	
2022	2	-	3	4	4	4	因果・変化	幕府の影響力が応仁の乱前後で変わるというのはいろいろな論述で頻出。	2003年度第2問、2018年度第2問
2022	3	A	3	5	4	4	変化・対比	鉄砲所持禁止の例外が鳥獣駆除であることを思いつつかの勝負。	2021年第3問
2022	3	B	2	4	1	2.5	背景・影響	ほとんど資料読み取りだけで資料もわかりやすい。	
2022	4	A	3	4	4	3.5	要因	財産権の保護に関する法律の整備、という内容だけは知識でなく資料のみから読み取る必要がある。	2011年度第4問、2016年度第4問
2022	4	B	4	4	5	4.5	要因・変化	棒グラフの年代に注目して、なぜそこが選ばれているのかという時代背景を余すことなく考えたい。	
2021	1	-	3	4	4	4	変化・構造	嵯峨朝周辺の政治運営は頻出なので関連問題と合わせて学習したい。	2005年度第1問、2024年度第1問
2021	2	A	4	3	3	3.5	意図・目的	ほぼ資料の内容をまとめるだけ。教科書レベルの知識でも書ける。	2001年第1問
2021	2	B	4	4	4	4	構造・意義	条件を含めると、結構コンパクトに書く必要がある。	
2021	3	A	3	3	3	3	背景・要因	知識オンリーでも書こうと思えばかける。	1998年度第3問、2022年度第3問
2021	3	B	2	5	4	4	意図・問題点	こちらは逆にほぼ知識不要で自分で資料から論理関係を組み立てる必要がある。	
2021	4	A	3	3	3	3	意図・目的	衆議院をけん制するための華族令というロジックは、同じようなものがほかの歴史を見ていてもあるかもしれない。	2008年度第4問
2021	4	B	4	3	4	4	意図・意義	党首＝衆院議員という憲政の常道の規範の確立を読み解けるか。	
2020	1	A	3	4	3	3.5	背景・要因	律令国家の構造的背景を端的に指摘する必要がある。「習書」という用語を使えばベストだが、文脈で説明できれば十分。	2004年度第1問、2008年度第1問
2020	1	B	4	3	4	4	役割・意義	「文化の受容」を外交的・政治的行為として捉える視点が必要。字数制限は厳しい。	
2020	2	-	2	5	4	4	構造・影響	資料の読解だけでほぼ解答可能だが、要素の結合が難しい。自治組織の排他性や結束を強化したというダイナミズムを論じる必要がある。図の読み取りは両側町の理解につながる。	2008年度第2問
2020	3	A	3	3	3	3	対比・役割	幕府が「技術と実務、朝廷が形式と権威を担った」という図式は、近世の朝幕関係の基本なので落とせない。	2009年度第3問
2020	3	B	4	3	3	3.5	変化・背景	輸入禁止緩和などと、それによる西洋天文学の採用という結果を因果関係で結ぶ。天保暦が洋学の成果であることを知っている、ないし読み取れるかが鍵。	
2020	4	A	4	3	4	4	背景・文脈	史料の時期から、直前の竹橋事件や西南戦争、民権運動を想起する時代把握力が必要。単なる政治不介入だけでなく、その背後にある動揺する軍隊という危機感を読み取りたい。	2017年度第4問
2020	4	B	4	3	4	4	意図・目的	「政治に関わらず」という言葉が、藩閥支配の維持という実は最も政治的な意図に基づいていたという逆説を理解しているかが問われる。	
2019	1	A	3	2	2	2	特徴・能力	短文記述だが、貴族社会の原理原則を理解していないと抽象的な解答になりがち。	2010年度第1問？
2019	1	B	3	3	4	3.5	目的・機能	120字とやや長めなので、儀式の重要性→先例の必要性→子孫への伝達→家の繁栄というロジックを丁寧に展開する。	
2019	2	A	2	2	3	2.5	因果・影響	承久の乱の歴史的意義を問う基本問題。教科書レベルの知識で十分対応可能だが、朝幕関係という視点を外さないこと。	2017年度第2問
2019	2	B	3	3	4	3.5	背景・理由	両統迭立の系図と史料を照らし合わせ、幕府が調停者かつ決定者として君臨していた構造を指摘する。	
2019	3	A	3	3	3	3	意図・背景	「貿易との関連」という指定があるため、正徳の治から続く金銀流出問題への対策であることを明記する。	2009年度第3問、2015年度第3問
2019	3	B	3	2	3	3	背景・社会	単に「贅沢になった」ではなく、具体的な消費需要の拡大(菓子、薬)を指摘し、それが全国的な市場形成につながっていることを示したい。	
2019	4	A	4	2	3	2.5	背景・要因	第一次大戦の影響を世界経済の視点から説明する基本問題。知識から書くこともできる。	2007年度第4問
2019	4	B	3	4	4	4	背景・要因	資料文のヒント(電源開発、新型機械)を見落とさないこと。単なる特需一辺倒ではなく、国内の産業基盤整備(インフラ投資)が進んでいたことに触れたい。	

東大日本史 過去問評価表

年度	大問	設問	知識	読解	記述	総合 難易度	記述形式	評価コメント・アドバイスなど	関連問題
2018	1	-	3	1	4	3	変化・意義	指定語句が論述の骨格を示唆している親切な設計。単なる語句ならべては無く一つ一つの意義づけをしたい。同じように資料が少ないものとしては1999年度の問題などがある。	1999年度第1問、2006年度第1問
2018	2	A	3	2	3	2.5	特徴・構造	「所在地との関係」という条件を見落とさないこと。京都＝商業の中心地＝土倉・酒屋の集積地という地理的条件が財政構造を決定づけた点を書けるか。	2002年度第2問
2018	2	B	4	3	4	3.5	因果・対策	分一銭の仕組み(手数料ビジネス化)は頻出事項なので正確に記述したい。	
2018	3	A	3	4	3	3.5	認識・判断	一般的な攘夷＝危機感というイメージを覆す良問。資料から脅威度の低さを読み取り、論理的に説明する力が求められる。	2000年度第3問、2024年度第3問
2018	3	B	3	4	4	4	意図・目的	異国船打払令の本質が「国内向けの引き締め」にあったことを見抜く洞察力が必要。	
2018	4	A	4	2	4	3.5	背景・流れ	教育史の通史的理解が必要。制度面と思想面の知識を統合したい。	2005年度第4問、2013年度第4問
2018	4	B	3	3	4	3.5	理由・比較	戦後改革の核心を突く問題。単に「軍国主義だから」といった浅い解答ではなく、憲法原理との法的な矛盾を指摘したい。	
2017	1	A	3	2	3	2.5	意義・目的	律令国家の中華思想を問う問題。教科書的な「領土拡大」だけでなく、それが持つ政治的意味を記述したい。	2003年度第1問、2008年度第1問
2017	1	B	4	3	4	4	影響・変化	30数年の戦争が社会構造を変えたという大きな歴史の流れを描く。古代から中世への過渡期(武士の発生)を論じる構想力が必要。	
2017	2	A	2	3	3	2.5	背景・経緯	設問Bとの対比で、こちらは「紛争解決の必要性」に焦点を当てる。地頭・六波羅探題の機能に関する基本知識で対応可能。	2001年度第2問
2017	2	B	3	3	3	3	理由・背景	「軍事情勢」という指定がヒント。元寇が終わっても準戦時体制が続いていたことを理解しているかが問われる。	
2017	3	A	2	4	3	3	基準・プロセス	史料読解問題の典型。原則と例外を整理し、その背後にある家の存続第一主義を読み取れるか。	1999年度第3問
2017	3	B	3	5	4	4.5	比較・地位	ジェンダー視点の良問。「差別されていた」と短絡するのではなく、公的な役負担の主体としての「家名」と、実際の人間の乖離を分析的に記述する。	2000年度第4問
2017	4	A	4	2	4	3.5	影響・変化	2個師団増設問題を単なる一事件ではなく、大正政変から政党内閣期へ至るプロセスの始点として捉える。長期間の影響を3行にまとめる構成力が必要。	
2017	4	B	4	2	3	3	背景・反応	浜口内閣の井上財政と幣原外交のセット運用を理解しているかが鍵。統帥権干犯問題は現代史の必須論点。	
2016	1	A	3	2	3	2.5	背景・性格	郡司制度の基本(国造制との連続性)を問う。基本的知識だが、特異な性格を論理的に説明する表現力が求められる。	1996年度第1問、2006年度第1問
2016	1	B	4	3	4	3.5	変化・推移	9世紀の変化(受領の台頭と郡司の地位低下)は頻出テーマ。史料にある「新興の豪族」という点にも触れ、郡司の質的变化を指摘する。	1992年度第2問
2016	2	-	2	4	4	3.5	行動・手段	5つの資料を時系列で整理し、惣村の多面的な行動様式を網羅的に記述する総合力が問われる。	
2016	3	A	3	2	2	2.5	理由・背景	家康の意図を当時の軍事情勢から説明する。基本問題。	2013年度第3問、2014年度第3問
2016	3	B	2	4	4	3.5	変化・解釈	法の解釈変更という法制史的な面白さを問う問題。史料から勘違い(あるいは意図的な曲解)を読み取り、それが政策転換の論理として使われたことを説明する。	
2016	4	A	3	3	3	3	要因・影響	産業革命期の労働市場の変化を問う。資料の読解が中心。	2011年度第4問、2022年度第4問
2016	4	B	4	2	4	3.5	比較・要因	2つの時期の対比。1930年代の低下要因として「軍需インフレによる実質賃金低下」や「無権利状態」を、60年代の上昇要因として「人手不足」「技術革新」を挙げる。経済史の標準知識。	

東大日本史 過去問評価表

年度	大問	設問	知識	読解	記述	総合 難易度	記述形式	評価コメント・アドバイスなど	関連問題
2015	1	A	4	5	4	4.5	背景	在来の神祇信仰は教義や体系を持たないアニミズム的なものであり、外来の体系的な宗教である仏教と教義上の衝突を起こしにくかった。また、仏教側も神を救済対象としたり、仏法の守護神として位置付けることで包摂した。という内容	1993年度第1問、2002年度第1問
2015	1	B	4	3	4	4	変化	神と仏は一体不可分のものとして体系化され、神像の作成なども行われるようになったことを記述する。	
2015	2	A	3	3	3	3	背景・原因	所領が散在する理由を承久の乱という重大な転換点から類推する問題。知識でもとける。	2001年度第1問、2019年度第1問
2015	2	B	3	4	4	3.5	手段・結果	遠隔地の所領経営委任が貨幣経済への巻き込みを加速させ、分割相続による細分化と相まって御家人の困窮を招き、最終的に所領の質入れ・売却による没落につながったことを論じるある意味典型的な問題ではある。	
2015	3	A	4	4	4	4	理由・特徴	データを読み取り、加工品は菱垣廻船・樽廻船などの海運インフラによって大量輸送のコストが見合うため、大坂から江戸へ大量に送られたことを記述する。	1995年度第3問
2015	3	B	3	5	4	4	理由	米については、大坂からの商用米だけでなく、関東・東北の天領・諸藩から年貢米として直接江戸に送られるルート（東廻り航路など）が存在したため、大坂経由の量は相対的に少なかった点に注意が必要。	
2015	4	A	4	1	4	4	影響・変化	大衆運動が圧力となって藩閥政治を打破し、政党内閣の慣行（憲政の常道）と男子普通選挙法を実現させたプロセスを記述する。	1993年度第4問、2020年度第4問
2015	4	B	4	3	3	3	内容・対応	社会主義流入の周辺の知識があるかどうかにかかる。	
2014	1	A	4	3	3	3	構造	トップダウンではない。太政官公卿による合議と、それに基づく天皇の裁可という、律令本来の意思決定プロセスを記述したい。	2019年度第1問、2021年度第1問
2014	1	B	4	3	4	3.5	変化	形骸化した面と実質化した面を分ける。陣定による合議機能の維持と、摂関・蔵人による天皇親政的側面の並存を指摘する。	
2014	2	-	3	4	4	3.5	変化・役割	応仁の乱による人の移動が鍵。在京（文化受容）から在国（地方移植）へ、大名の行動変容が文化拡散の直接原因であることを記す。	1999年度第2問
2014	3	A	4	4	4	4	構造	武士は知行高、農民は村高基準。前近代的な石高制に基づく封建的動員システムであることを端的に確認したい。	2005年度第3問、2008年度第3問
2014	3	B	3	4	5	4.5	背景・因果	動員→インフレ→世直し一揆という負の連鎖を描く。領国崩壊の危機が、幕命への服従よりも優先された構造的要因を指摘する。	
2014	4	A	3	4	3	3	理由	欽定でも議会在あればよい。予算・立法の審議権を通じて、藩閥（有司専制）を打破できるという民権派の政治的計算を読み取れるか。	2005年度第4問、2008年度第4問
2014	4	B	4	4	4	4	背景・理由	「権利は法律の範囲内」という規定の逆手取り。議会で法律を変えれば権利は拡大できるという、法律中心主義的な戦略を論ずる。	
2013	1	-	5	4	5	5	意義・構造	対外的には「冊封」、対内的には「治天下大王」を使い分けた二重外交を指摘。この二重性が強力な王権確立のテコになったことを論じる。	1994年度第1問、2003年度第1問
2013	2	A	4	3	4	3.5	特徴・外交	豊富な金・馬の貢納で恭順しつつ、北方の交易利権を独占した点に着目。中央と距離を置き実利を得る、巧みなバランス外交を記述する。	1997年度第2問
2013	2	B	3	3	4	3	理由	義経匿いは口実。本質は、朝廷と直結しうる第二の武家政権の存在が、頼朝の全国支配構想（軍事警察権の独占）と矛盾したため。	
2013	2	C	4	3	5	4	比較・分析	地理的独立と、御恩・奉公の制度化が勝因。平氏のような私的な結合を超え、公的な統治システムへと昇華させた点を評価する。	
2013	3	A	2	4	3	3	構造	武家＝「武力・政治」、天皇＝「学問・儀礼」。幕藩体制の根幹にある厳格な機能分担と、朝廷の権威付け利用（非政治化）を明確に。	1994年度第3問、2022年度第3問
2013	3	B	4	4	4	4	変化・背景	武断から文治への転換点。殉死禁止は個人への忠誠から家・役職への忠誠への変化を意味する。武士の官僚化を指摘。	
2013	4	A	5	3	4	4	特徴・意図	譜代独占の打破と、外様・陪臣を含めた能力主義による挙国一致体制の構想。ペリー来航という国難が、身分制の流動化を促した点を突く。	1994年度第4問、2015年度第4問
2013	4	B	4	3	4	3.5	比較	橋本案に対し、明治国家は中央集権・三権分立・議会制を実現した。構想と現実の制度的落差（大名の消滅など）を対比する。	

東大日本史 過去問評価表

年度	大問	設問	知識	読解	記述	総合 難易度	記述形式	評価コメント・アドバイスなど	関連問題
2012	1	-	4	5	4	4.5	変化・背景	量(農民徴兵)から質(健児・武士)への転換を描く問題。公的な軍団から、私的な武士へと軍事力の担い手が外注化されていく流れを整理する。	1999年度第1問
2012	2	A	3	3	4	3.5	対比	成功対 勤進。資金調達における閉鎖的な主従関係と開放的な宗教活動の性格の違いを対比。	2015年度第1問、2024年度第2問
2012	2	B	4	4	4	4	対比	新仏教に対し、旧仏教側も戒律復興や社会事業で対抗・自浄しようとした点を評価する。旧仏教=守旧派というステレオタイプを捨てたい。	
2012	3	-	4	3	4	3.5	機能・変化	若者組は村落自治の担い手であると同時に、風紀を乱す存在でもあった。権力がこれを利用しつつ規制した二律背反を指摘。	1992年度第2問、2016年度第2問
2012	4	A	3	4	3	3	背景	満州事変以降の国策移民の歴史的経緯を問う。国内の農村貧困(ブッシュ要因)と、植民地支配の実働部隊としての役割をセットで記述する。	2002年度第3問
2012	4	B	4	2	4	3.5	外交	帰還問題が冷戦構造下の外交カードとして利用された点を突く。スターリンの死と日ソ共同宣言による雪解けまで視野に入れること。	
2011	1	-	4	3	4	3.5	背景・影響	「敗戦→国内統合の加速」という因果関係を明記すること。天智期の施策(戸籍など)が、単なる行政整備ではなく軍事動員基盤の構築であった点まで射程に入れるべし。	1992年度第1問
2011	2	A	4	3	4	3.5	構造・機能	在京と在国の二面性を指摘すること。幕府権威に依存しつつ独自支配を強める守護領国制への過渡期として捉えるのが鍵。	2002年度第2問
2011	2	B	2	5	5	4.5	背景	教科書レベルでは知識がないので、問題文のデータを読み取って自分で因果を組み立てる想像力が必要。	
2011	2	C	2	1	1	1	内容	教科書レベルの知識。サービス問題。	
2011	3	A	3	4	4	3.5	関係・意図	軍役=「主従関係の可視化」+「大名の経済力削減(弱体化)」の二点論法で攻めること。大名が負担を家臣へ転嫁し、藩内統制にも利用した点に触れたい。	2005年度第3問、2014年度第3問、2021年度第3問
2011	3	B	2	3	4	3	意義	軍事土木技術(石垣・運搬)が、平和時のインフラ整備(治水・海運)へ転用された点を突く。軍事から民生への技術スピノフの視点が必須。	
2011	4	A	4	2	3	3	背景・理由	戦前の主要産業=繊維(軽工業)という基本知識を使う。国際競争力の源泉が、農村出身女性の低賃金労働にあった事実を指摘したい。	2016年度第4問、2019年度第4問
2011	4	B	4	2	3	3	背景・対比	10年代(大戦景気)と30年代(軍需産業化)を明確に区別すること。共に重工業化だが、市場要因が国策要因かの違いを意識して記述したい。	
2010	1	-	4	3	3	3	変化・関係	上級貴族と中下級貴族の関係についての基本知識をまとめる問題。資料文から読み取る内容もアルアル。記述も難しくない。	1998年度第1問、2019年度第1問
2010	2	A	3	5	3	4	特徴・背景	畿内(米・油)、九州(米)、関東(繊維製品)の明確な違いを、水運と陸路の輸送ルートとコストの観点から説明する高度な分析力と思考力が要求される。	1995年度第2問、2001年度第2問
2010	2	B	2	3	1	2	変化・事実	年貢の代銭納の普及という基礎知識を史料から確認し、短く記述するだけのボーナス問題。	
2010	2	C	4	4	4	4	理由・背景	代銭納の普及により、地方で換金された旧年貢物が商品として大消費地へ商人の手で廻送されるようになったという、マクロな流通構造の転換を論述する。	
2010	3	A	3	4	4	3.5	理由	山師と職人に求められる資質の違いを、彼らの出身地の歴史的背景と結びつけて論理的に推論する優れた良問。知識と発想力両方が必要。	1995年度第3問、2001年度第3問
2010	3	B	4	4	3	3.5	理由・利点	西廻り航路未整備という時代背景を踏まえ、上方への莫大な廻米コストを回避しつつ、領内の鉱山町で年貢米を有利に換金できる藩のメリットを経済学的視点から記述する。	
2010	4	-	4	3	4	4	内容・背景	条約改正に伴う表面的な欧化政策への反発を背景とし、民友社などの自由拡大・平民主義と、政教社などの国粋主義の二方向のナショナリズムの頭顔をバランスよくまとめる構成力が問われる。また年表は時代と項目をくまなく利用したい。	2007年度第4問?

東大日本史 過去問評価表

年度	大問	設問	知識	読解	記述	総合 難易度	記述形式	評価コメント・アドバイスなど	関連問題
2009	1	-	4	4	4	4	変化・意義	7世紀初頭、7世紀半ば、8世紀という3段階の変遷を、白村江の戦い等の東アジア情勢と連動させて論述する構成力が必須。	1997年度第1問、2003年度第1問
2009	2	A	3	4	3	3.5	方針	戦乱の原因を大名の自力救済と捉え、惣無事令による豊臣政権への裁定権の強制委任と、違反者に対する武力討伐という方針を史料から素直に導きたい。	1996年度第2問、2000年度第2問、 2002年度第2問
2009	2	B	2	3	2	2	権威・論理	関白という最高の地位と、天皇の意思を奉じて全国支配を行うという論理を簡潔に答える基本的な知識問題。確実に得点したい。	
2009	2	C	3	3	3	3	概念	御恩と奉公という原理を、単なる語句の暗記ではなく、知行と厳格な軍役負担のセットとして具体的に説明し、大名統制のシステムを解明する力が問われる。	
2009	3	A	3	3	3	3	変化・影響	記述は編年体で書くだけ。知識を引っ張り出す量が多い。	2024年度第3問
2009	3	B	2	4	2	3	特徴	ほぼ、資料をまとめるだけだが、資料のちょっとした記述から特徴を読解するのが難しい。	
2009	4	-	4	4	5	4.5	比較・背景	現代の過疎とは逆の農村の相対的過剰人口を指摘する。生糸・米価の暴落と失業者の帰郷による貧困(欠食児童や身売り等)のメカニズムを指定語句を用いて過不足なくまとめ上げる高度な記述力が必要。	2000年度第4問、2016年度第4問
2008	1	A	2	4	3	3	役割	東国が天皇の護衛や防人といった国家の軍勢力の中核であり、兵力供給基地であったことを、初見の史料から素直に抽出する読解の問題。	1999年度第1問、2012年度第1問
2008	1	B	3	5	4	4	対応	反乱者が常に東国の強大な軍勢力を狙う地政学的な傾向を見抜き、それに対して国家が三関の封鎖による交通の遮断という防衛策を講じたことを論理的に構築する力が必須。	
2008	2	A	2	4	3	3	意図・特徴	円状署名が、現実には存在する武士間の階層差を超えた対等性や連帯を擬制している点を見抜く史料読解の基本問題。	2015年度第1問、2016年度第2問
2008	2	B	4	4	4	4	変化・対比	結成前の個別的関係や私利の優先から、結成後の全体秩序の優先と私的行動・武力行使の抑制への社会規範の変化を明確な対比構造で記述する。	
2008	2	C	5	5	4	5	概念	神を合意形成の媒介とし、神罰という絶対的な強制力によって秩序の維持を担保するという、中世人特有の精神世界・法意識を言語化する最難関レベルの思考問題。深い歴史的洞察が必要。	
2008	3	A	3	3	3	3	背景	商業的農業の進展や都市への出稼による労働力不足、さらには農民の奢侈化による米の減産と消費増大という構造的危機を、提示された史料から正確かつ過不足なく読み取る作業問題。	2001年度第3問、2021年度第3問
2008	3	B	3	2	3	3	理由・背景	小問Aで抽出した各課題に対し、旧里帰農令や囲米、義倉の設置、厳格な風俗取締といった松平定信の具体策を一对一の論理対応で網羅的に記述する基本的な知識問題。	
2008	4	A	4	2	3	3.5	変化・意義	内閣成立の背景を、日露戦争を見据えた軍拡路線と、その財源としての地租増徴をめぐる藩閥と政党の決定的な対立構造から説明する政治史・知識重視の問題。小問Bもそうだが、問題文の付帯条件に注目。	2017年度第4問、2021年度第4問
2008	4	B	4	2	4	4	方針	大戦景気による都市大衆の成長や米騒動の勃発を背景に、従来の超然主義が行き詰まり、元老側が政党の持つ統合力に依存・期待したという歴史的・政治的評価の記述が求められる。	

東大日本史 過去問評価表

年度	大問	設問	知識	読解	記述	総合 難易度	記述形式	評価コメント・アドバイスなど	関連問題
2007	1	-	4	5	4	4.5	変化・理由	平城京造営時の全国的な普及策から、平安京遷都時の強制的な還流策への転換理由を問う。この表層的变化を、東大寺造営などに伴う政府の財政難という構造と結びつける読解力と思考力が求められる。	2004年度第1問?
2007	2	A	3	4	3	3.5	特徴	幕府の保護や活発な日中間往來を背景に、禅僧が政治・外交の使節として活躍し、その過程で五山文学や水墨画が生み出されたという特徴を、要素を落とさずに因果としてまとめる構成員が必要。	1999年度第2問、2000年度第2問
2007	2	B	3	2	3	2.5	結果	浄土真宗と日蓮宗それぞれの支持層の広がりから、一向一揆・法華一揆の結成による政治的・社会的自治の実現へと至るプロセスを教科書知識で平易に整理する。	
2007	3	-	4	3	4	3.5	特徴	蘭学・国学・本草学といった多岐にわたる学問発展の事例から、共通項として実証主義的・客観的アプローチや原典主義の徹底という上位概念を抽出する高い抽象化能力が問われる。具体と抽象の往復が必要。	2003年度第3問
2007	4	A	2	2	2	2	内容	日露戦争勝利後のポーツマス条約による権益獲得という、近現代史の基礎的な知識を問う平易な問題。確実に得点源としたい。	2002年度第3問
2007	4	B	4	4	4	4	理由・背景	ワシントン体制下の帝国主義や、植民地が持つ食糧・資源供給地・商品市場としての死活的な経済的価値を多角的に説明したい。軍部の台頭と満州事変の勃発にも触れると解答が盤石になる。	
2006	1	-	4	3	4	3.5	対比・変化	知識、読解、記述それぞれバランスよく必要な問題。律令制導入後も残存する氏族制の継承と新たな官僚制の導入という二重構造の対比を明確に言語化するのが難しい。	2005年度第1問
2006	2	A	3	4	3	3	背景・理由	荘園公領制の定着に伴う領域の境界紛争や僧兵の強訴といった、院政期特有の時代の混乱状況を史料からの確に抽出・要約できるかが鍵となる。政治権力内部の対立にも触れると盤石である。	1996年度第2問
2006	2	B	3	3	4	3.5	過程・特徴	権力掌握のプロセスと経済基盤の2つの要求要素を漏れなく、かつコンパクトに因果関係として結びつけて記述する構成員が必須。	
2006	3	A	4	4	3	4	背景・理由	明の海禁政策と、朝貢貿易の仕組みという東アジアの国際関係に関する知識が不可欠。この二つがどのように組み合わせられて琉球の中継貿易の独占を生み出したかという本質を突く良問。	2004年度第3問
2006	3	B	3	4	3	3	意図・背景	薩摩藩による武力支配と幕府への従属という事実を隠蔽する意図を、日清関係と絡めて多角的に理解・表現する必要がある難問。二重外交のしたたかさを記述したい。	
2006	4	A	2	2	1	1.5	理由	1906年の鉄道国有法の制定という基礎知識一発で解答可能なボーナス問題。日露戦争後という時期の特定ができれば瞬殺できるため、絶対に落とせない。	2008年度第4問、2021年度第4問
2006	4	B	3	4	4	3.5	変化・背景	日本鉄道会社の成功などの企業勃興と産業革命の進展に加え、日清・日露戦争に向けた軍事輸送目的を結びつける総合的な視点が必要。字数内での要素の圧縮が難しい。	
2006	4	C	3	3	4	3.5	理由・背景	立憲政友会による大戦景気を背景とした積極政策と、地方への鉄道誘致を通じた利益誘導の文脈を教科書レベルの知識から引き出し、政治史と経済史を統合して簡潔にまとめる問題。	
2005	1	-	5	3	4	4	意義・変化	嵯峨朝における蔵人所や格式の整備による天皇親政の強化と、儀式・学問重視への転換という初期律令制からの変質を明確に記述する必要がある。政治史の地力が如実に表れる。	2010年度第1問、2024年度第1問
2005	2	A	2	4	3	3	意図	律令を知らない武士に対する道理に基づいた裁判基準の明示という、史料の意図を正確に読み取り、簡潔にまとめる力が問われる。	1997年度第2問、2019年度第2問
2005	2	B	3	4	4	4	意図・背景	幕府が朝廷の法を侵さない主張し、公家の警戒を解きつつ二元支配のバランスを保とうとした泰時の高度な政治的意図を問う。資料文の裏にある幕府の戦略をどう使うか判断に迷う。	
2005	3	-	4	3	4	3.5	仕組み・背景	豊臣政権による太閤検地が、大名への軍役賦課と百姓への夫役賦課の統一的基準となったメカニズムを理解し、その本質的な理解を問う良問であり、抽象化する力が必要。	2011年度第3問、2016年度第3問
2005	4	-	4	2	5	4.5	対比	明治憲法と日本国憲法における三権分立の比較。天皇総攬による弱い抑制機構と、国会中心の強い相互抑制という公民的知識を歴史的文脈で記述する。	2008年度第4問、2014年度第4問

東大日本史 過去問評価表

年度	大問	設問	知識	読解	記述	総合 難易度	記述形式	評価コメント・アドバイスなど	関連問題
2004	1	-	4	2	5	4.5	背景・展開	外交実務から律令官僚制、文章経国、国風文化へ至る漢字の普及過程を記述する。5つの指定語句を不自然にならずに文脈へ繋ぐ構成本力が重要。パズル的な記述力が求められる。	2020年度第1問、2025年度第1問
2004	2	A	2	2	2	2	背景	基本的な経済史の知識で対応可能なボーナス問題。確実に点をもぎ取るべし。	1995年度第2問
2004	2	B	3	3	3	3	意図	考古学的視点を歴史論述に持ち込むユニークな設問で、知識がないとその場で推測するしかない。発想力が試される。	
2004	2	C	4	3	4	3.5	変化・影響	権力論と経済論を見事に融合させる記述力が問われる秀逸な問題。	
2004	3	-	4	3	4	3.5	意義・背景	知識、読解、記述それぞれバランスよく必要な問題。問われている時代より、後の時代の資料文を引用するのが難しい。	2006年度第3問
2004	4	-	3	2	4	3	対比・変化	地租改正と農地改革の対比。近代土地所有権の確立と寄生地主制の発展、そしてその解体という起点と終点を論理的につなぐ壮大なテーマ。	2003年度第4問、2024年度第4問
2003	1	-	4	5	4	4.5	対比	知識、読解、記述それぞれバランスよく必要な問題。たて前と実際のズレを言語化するのが難しい。唐に対する従属的朝貢と、新羅使がもたらした実利を見落とさないよう注意が必要。	1994年度第1問、2009年度第1問
2003	2	A	3	4	3	3.5	変化・特徴	惣領制の崩壊という教科書知識を軸に、史料から血縁から地縁への移行や利害・情勢による流動的な離合集散を的確に読み取る。鎌倉前期のまとまった行動との対比が不可欠。	2014年度第2問
2003	2	B	4	3	4	3.5	背景・要因	親応の擾乱による幕府中央の分裂と、地方武士の単独相続移行に伴う所領争いが連動したという中央と地方のリンクを論理的に構成する力が問われる。	2006年度第3問？
2003	3	A	3	3	3	3	背景・意図	幕府支配の正当性と、歴史書の編纂のつながりを書くのが難しい。	
2003	3	B	4	4	4	4	背景・対比	日本＝中華の根拠を丁寧に書こうとすると、字数が足りない。日本＞中国の構図を書き忘れる。	
2003	4	A	2	2	3	2	背景・目的	基礎的な現代史の知識で対応可能だが、軍需優先・民需抑制による最低限の国民生活維持のメカニズムを的確に言語化したい。	1995年度第3問、2009年度第4問、 2024年度第4問
2003	4	B	3	2	3	2.5	背景・変化	文明開化という表層的要因だけでなく、資本主義経済の発展に伴う工業化と都市化という構造的要因にまで踏み込めるかが高得点の鍵。	
2003	4	C	4	3	5	4	要因・構造	寄生地主制下での高額な現物小作料の収奪と、肥料・生活必需品購入のための米の商品化という農村の極度の窮乏構造を記述する。極めて重要な頻出論点。	
2002	1	-	4	2	4	3.5	特徴	朝廷・貴族と地方有力者という対象の区別と、現世利益と来世往生の役割の違いを対比させることがポイント。時期指定に注意。	1993年度第1問、2012年度第2問
2002	2	A	4	4	3	4	特徴・対比	惣村の指導者として荘園領主に対抗し、国人とともに大名に抵抗し、土一揆で幕府に反抗するという、上位権力への多方面へのベクトルを整理して記述する能力が問われる。	1993年度第3問、1996年度第2問
2002	2	B	3	3	3	3	意図・目的	戦国大名の支配の核心を突く問題。史料の読解に加え、教科書知識の正確で論理的なアウトプットが求められる。	
2002	2	C	2	2	2	2	特徴	家臣団への生活・軍事物資供給という本来の目的を見失わずに簡潔にまとめる。	
2002	2	D	4	4	4	4	構造	生産・生活の自治的共同体と幕藩領主の末端支配組織という二面性を端的に記述する。江戸時代の支配構造の根幹をなす最重要論点。	
2002	3	A	4	3	3	3.5	背景・要因	三国干渉による臥薪嘗胆の気風と、朝鮮でのロシア影響力拡大を記述する。北清事変は時期外れとなるため除外する判断力が必須。	2007年度第4問
2002	3	B	4	4	4	4	変化・要因	南満洲権益の安定化という自国の都合と、米国の満洲進出への対抗という国際力学の両面を記述する必要がある。	

東大日本史 過去問評価表

年度	大問	設問	知識	読解	記述	総合 難易度	記述形式	評価コメント・アドバイスなど	関連問題
2001	1	-	4	4	4	4	対比・変化	課税方法は、何に対して課税されたかを史料から読み取り、背景知識で補強する。納入主体は、史料の表面的な事実だけでなく、その制度的変容を的確に記述することがポイント。	1998年度第1問、2023年度第1問
2001	2	A	3	4	3	3.5	対比・特徴	本領安堵中心で権限が強い東国と承久の乱後の新恩給与中心で本所支配が残存し権限が抑制された西国の構造的差異を史料から判断する。	2021年度第2問
2001	2	B	3	3	3	3	課題	単なる用語の羅列ではなく、それがどう紛争を調停したかのメカニズムに言及すること。	
2001	2	C	1	5	2	3	特徴	史料の品目と絵図の視覚情報から、米麦の二毛作、山野での採集、馬の飼育、水上輸送(港の存在)などを漏れなく抽出する。観察力と想像力がストレートに問われる。	
2001	3	-	4	2	3	3	背景・要因	化政文化の特徴のみならず、その形成過程に関する因果関係を理解しておく必要がある。読解は簡単に、記述も凝った書き方をする必要はない。	(1992年度第3問)
2001	4	A	3	3	3	3	意義	グラフから生産の増大と輸出中心であることを読み取り、外貨獲得による機械・原料輸入への貢献という、産業革命期の経済構造を論述する。製糸業とのアナロジーが有効。	1996年度第4問、2011年度第4問
2001	4	B	2	1	2	1.5	影響	足尾鉾毒事件を軸に、経営主体の古河市兵衛、問題解決に奔走した田中正造、甚大な被害実態、そして政府の不十分な対応を過不足なくまとめる。	
2000	1	A	2	2	2	2	目的・背景	情報伝達・公文書伝達という基本機能に加え、大宰府と都を結ぶ山陽道が最重要視された地政学的背景を答える基礎的な問題。	1996年度第1問、2022年度第1問
2000	1	B	3	3	3	3	要因・背景	律令制の弛緩に伴う国司の監督機能低下と、使者による駅馬の不正・過剰利用による労働負担の激増を論理的につなぐ。国家システムの末端での崩壊を描写する。	
2000	2	A	3	4	3	3.5	特徴	寺内町の建設や年貢納入拒否を通じ、既存の大名支配を排除して信仰を軸とした自律的な自治領国を形成した実態を史料からまとめる。	2007年度第2問、2009年度第2問
2000	2	B	2	3	2	2.5	特徴・意図	まず大名を改宗させ、その権力を利用して家臣や領民に強制的に改宗を迫るという、トップダウン型の戦略的布教方針を的確に抽出する。	
2000	2	C	5	3	5	4.5	要因・構造	秀吉の兵農分離、大名を通じた一元支配という国家構想と、身分を超えて信仰で強く団結し、大名支配から自立・対抗しようとする宗教勢力の存在が真向から対立する構造を論証する難問。	
2000	3	A	1	2	1	1	読解	史料中の「神奈川港閉鎖いたし候わば」から、横浜鎖港を要求した事実を素直に読み取る。知識は不要な読解問題。	1997年度第3問、2018年度第3問
2000	3	B	4	4	4	4	背景・要因	1863年末という時期設定から、経済混乱に伴う民衆の反発、相次ぐ外国人殺傷事件、朝廷からの攘夷決行圧力に対し、全面戦争を回避しつつ国内を宥めるための方便であった政治力学を論じる。	
2000	3	C	2	3	2	2.5	要因	条約違反による戦争勃発の必至と、海軍力の圧倒的格差による勝算のなさをフランス側から突きつけられたことを史料から抽出する。	
2000	4	-	5	4	4	4.5	因果	指定語句を用い、井上財政によるデフレ・昭和恐慌への転落から、高橋財政による管理通貨制度移行と輸出主導の回復までのマクロ経済の因果の連鎖を記述する重厚な問題。	2009年度第4問、2011年度第4問
1999	1	-	4	3	5	4	構造	白村江の戦いと壬申の乱を契機とし、庚午年籍・庚寅年籍を通じた人民の個別把握が、旧来の氏族軍事力から人民直接徴発への転換を可能にした論理構造を描く。軍事目的での戸の人為的編成に触れたい。	2012年度第1問、2017年度第1問
1999	2	-	3	4	4	3.5	特徴・構造	惣村や町の発展を背景に、公家・武家・民衆の文化が上下の身分を超えて融合した点や、寄合をベースにした集团的・共同的な芸能の発達を論じる。民衆のみの文化と誤解しないよう注意。	1994年度第2問、2014年度第2問
1999	3	-	3	5	4	4	対比・特徴	長子単独相続という武家との共通点を指摘しつつ、家禄に基づく武士とは異なり、経営手腕が家の存続に直結する商家では長男の能力が厳しく問われ、無能であれば廃嫡や他家からの養子縁組がドライに行われた実態を対比する。女性に相続権がない点も忘れずに。	2017年度第3問
1999	4	-	5	2	5	4.5	変化	長期間の制度と理念の推移を、時代背景と紐づけてグループ化し記述する圧倒的な知識整理問題。	2018年度第4問、2025年度第4問

東大日本史 過去問評価表

年度	大問	設問	知識	読解	記述	総合 難易度	記述形式	評価コメント・アドバイスなど	関連問題
1998	1	A	3	4	4	3.5	変化・対比	知識、読解、記述それぞれバランスよく必要な問題。前生の在地首長と後生の開発領主という出自や性格の変化を的確に言語化するのが難しい。伝統的権威から実力主義への移行というマクロな視点が必須。	1996年度第1問、2001年度第1問、 2016年度第1問
1998	1	B	4	4	5	4.5	対比	設問(A)の展開問題。資料文から行政区画の再編、国司の関与を読み取る読解力が求められる。(A)の背景知識に強く依存するため、(A)の方向性を外すと連鎖的に失点するリスクが極めて高い。	
1998	2	A	4	2	3	3	特徴・意図	典型的な知識問題。朝貢形式と勘合符の役割という2つの主軸を、指定行数内で過不足なくまとめる記述力が問われる。	2009年度第3問、2011年度第2問
1998	2	B	3	4	4	3.5	変化・背景	表データの読み取りが主軸。応仁の乱を契機とした幕府の権威衰退と、細川氏・大内氏の台頭をどう結びつけるかが鍵。歴史の流れを時系列で整理し、主体が幕府から大名へ移行した構図を描く力が試される。	
1998	3	A	4	3	3	3.5	背景・構造	幕府財政の構造的赤字と商品経済の浸透というマクロな視点が必要。単なる財政難で済ませず、武家経済が米価に依存する一方で、生活の都市化に伴い商人に依存せざるを得なくなった構造的要因を説明する必要がある。	2014年度第3問、2016年度第3問
1998	3	B	3	5	4	4	影響・意義	参勤交代は単なる経費節減策ではなく軍役で、大名の自立化を促し幕藩体制の根幹たる中央統制力を揺るがす危機であったという論点を導き出す。表面的な理解では太刀打ちできない。	
1998	4	-	4	2	5	4	背景	指定語句を時系列で整理し、それぞれの時代背景と結びつける総合力が問われる。1920年代の法制化要求と戦後の成立の違いに注意深く言及すること。また、問題文の付帯条件も落とさないこと。	2011年度第4問、2016年度第4問
1997	1	A	3	2	3	3	影響	知識、記述ともに標準的な問題。律令制度の導入という政治的側面と、国家仏教や漢詩文といった文化的側面の両面を過不足なく言語化する構成力が問われる。情報の取捨選択は必要。	2006年度第1問、2009年度第1問
1997	1	B	2	4	4	3.5	背景・理由	史料読解が極めて重要な問題。吉備真備が生き残った理由として3要素を漏れなく抽出して言語化する情報処理能力が求められる。単なる知識の羅列では得点が伸びない。	
1997	2	A	4	3	4	4	背景	鎌倉幕府における将軍と御家人の主従関係の本質を理解していないと記述が散漫になる。名目的な権威としての摂家・宮將軍の役割と、それが結果的に反北条勢力の結節点となってしまうというジレンマをどう論理的に繋ぐかが難しい。	2019年度第2問？
1997	2	B	5	3	5	3.5	理由・背景	知識、読解、記述のすべてが要求される難問。天皇を頂点とする貴種性と、伊豆の在庁官人に過ぎない北条氏との間にある、中世特有の身分意識の壁を言語化しなければならない。	
1997	3	-	4	3	5	4	背景	国内の社会動揺と、対外危機を限られた字数内で統合する重厚な論述問題。アヘン戦争期と混同しないよう、時期の限定に細心の注意を払う必要がある。	2008年度第3問
1997	4	A	3	4	3	3.5	理由・意図	資料文からイギリスによる督促という外圧の存在を読み取り、戊辰戦争下における明治新政府の国際的承認の獲得という死活的な生存戦略と結びつける必要がある。	1994年度第4問、2018年度第4問
1997	4	B	3	4	3	3.5	特徴	A問題の延長線上にあるが、資料文から攘夷厳禁が一時的な施策であったことを見抜き、民衆政策の本質は旧幕府の継承であったという性格をあぶり出す読解力が求められる。	
1996	1	-	4	4	4	4	背景	農民の階層分化、私出挙による貧農の隷属化、偽籍、中央の権門勢力との結託という複数の歴史的論点を組み合わせ、公地公民制の形骸化を描き出す記述力が必須となる。	2001年度第1問、2010年度第1問
1996	2	A	3	2	2	2.5	変化・対比	鎌倉期の軍事指揮官から、室町期の領国支配への変化を記述するオーソドックスな問題。正確な基礎知識の引き出しが問われる。	2002年度第2問、2011年度第2問
1996	2	B	4	4	4	4	意図	知識、読解、記述それぞれバランスよく必要な問題。国人一揆の自治的性格を戦国大名がいかに分国法で解体・吸収し、検地と城下町集住によって彼らの在地支配権を奪ったかを論理的に構築する構成力が求められる。	
1996	3	-	4	4	5	4.5	背景・理由	資料の描写から、幕藩体制下の家や共同体に縛られた従属階層の抑圧状態と、商品経済進展による共同体の動揺を読み取り、それが伊勢信仰の熱狂へと結びつく仕組みを描写する。構成が難しい。	2001年度第3問？
1996	4	A	3	3	3	3	理由・背景	日本の産業革命期における綿紡績業の発展に伴う機械と原料の輸入増と、重工業の未発達に起因する軍備拡張のための兵器・鉄鋼の輸入という2つの要因を明確に書き分ける必要がある。	2001年度第4問、2019年度第4問
1996	4	B	2	2	2	2	理由・背景	第一次世界大戦の勃発という特需を記述する基本的かつ平易な問題。確実な得点源としたい。	

東大日本史 過去問評価表

年度	大問	設問	知識	読解	記述	総合 難易度	記述形式	評価コメント・アドバイスなど	関連問題
1995	1	A	3	2	3	3	対比・特徴	幼少の天皇を代行する摂政と、成人の天皇を後見する関白の決定的なシステム上の違いを正確に表現しつつ、ともに太政官を統括し最高権力を握ったという共通点をまとめる基礎的良問。	2014年度第1問、2021年度第1問
1995	1	B	4	2	4	3.5	変化・特徴	後期との対比から、前期は不設置の時期がある、他氏排斥が続く不安定な外戚関係であることを導き出す必要がある。逆算的な思考回路が求められる。	
1995	2	-	4	3	4	3.5	背景	指定語句を用い、都市と農村を結ぶ遠隔地商業の発達と、地域内市場の成立という2つのベクトルを構造的に記述する力が問われる。	2004年度第2問、2010年度第2問
1995	3	-	5	3	4	4	背景	米自体を商品作物と記述してしまう致命的ミスに陥りやすいため注意が必要。	2015年度第3問
1995	4	A	3	4	2	3	正誤	指定された5つの文章から歴史的事実の誤りを見つけ、修正案を出す特殊な形式（これ以降は見られない）。普通選挙法など、基礎的な近現代社会史の知識が正確に定着しているかが問われる。	1993年度第4問、2017年度第3問
1995	4	B	4	3	4	3.5	変化	家父長制による無能力者としての隷属状態から始まり、資本主義の発達に伴う労働力化、そして大正デモクラシー期における婦人参政権獲得運動の展開まで、時代背景を伴ったダイナミックな論述が必要。	
1994	1	A	2	3	3	2.5	変化・対比	史料から、5世紀の冊封体制下での従属的朝貢から、7世紀の冊封を受けない対等な外交姿勢への変化を端的に抜き出す。比較的平易であり確実に得点したい。	003年度第1問、2009年度第1問、2011年度第1問
1994	1	B	5	3	5	5	背景・理由	国内の政治統合と国際関係の両面から重層的に論証するかなりの難問。高度な政治力学の理解が必要。何を記述するかも割れそう。	
1994	2	-	3	4	4	3.5	特徴・背景	史料から公家と武家の文化の融合、庶民・地方の台頭を読み取る。惣村や国人一揆を基盤とする寄合の文芸の普及と下剋上の世相を有機的に結びつける構成員力が求められる。	1999年度第2問、2014年度第2問
1994	3	-	4	4	4	4	特徴	年表から統制、権威の利用、儀礼の復興という3つの軸を抽出し、持ちつ持たれつの相互依存関係へ帰着させる論理展開が見事。	2020年度第3問
1994	4	-	2	5	4	4	理由・背景	それなりの知識が要求される第4問には珍しく、資料を読み解く問題。発想力に加え、文章力も要される。	1997年度第4問
1993	1	-	4	3	5	4	変化・役割	飛鳥→奈良→平安初期という3段階の変遷を、渡来僧と入唐僧の役割と絡めて論理展開する極めて構成負荷の高い問題。	2002年度第1問、2015年度第1問
1993	2	A	3	2	3	2.5	対比・理由	モンゴルの集団戦に対する日本の一騎討ちの理由を、惣領制に基づく恩賞獲得のための個人的軍功の証明という武家社会の構造的特質から説明する典型的な良問。	2006年度第2問
1993	2	B	3	4	3	3.5	役割・影響	高麗がモンゴルの基地として軍船や兵員を供出させられた実態と、一方で高麗政府のサボタージュや三別抄の抵抗が遠征の遅延・失敗を招いたという国際的な相互作用を読み解く。	
1993	3	-	3	5	4	4	背景	俳句から大坂町人の無関心を装う反権威的姿勢を読み解く。幕藩領主が町・村の自治に依拠した間接統治を行っていたため、団体秩序に服せば奉公は無縁でいられたという本質を突く問題。	1996年度第3問？
1993	4	A	2	1	1	1	変化	基礎的な公民的知識を問う平易な問題。	2005第4問、2008第4問、 2014第4問、2018第4問
1993	4	B	4	2	2	3	理由・背景	五・一五事件による犬養内閣崩壊という直接的要因だけでなく、政党と財閥の癒着への批判や軍部の台頭を背景に、元老西園寺が急進派を抑えるため海軍の斎藤実を推挙したという深い政治力学の理解が必要。	
1993	4	C	3	1	1	2.5	対比	首相指名権と憲法改正議決権の所在について、帝国議会と国会の違いを正確に指摘する問題。制度史の正確な暗記が求められる。今ここまでの知識が求められるかと言えば微妙。	